調 査 結 果 の 概 要

Ⅱ 内 水 面 漁 業 調 査

（中国四国農政局松江統計・情報センター編集）

Ⅱ　内水面漁業調査

1　湖沼漁業に関する統計（団体経営体及び年間湖上作業従事日数30日以上の個人経営体）

（1）　漁業経営体

ア　経営組織別経営体数

図26　経営組織別経営体数の推移（宍道湖）

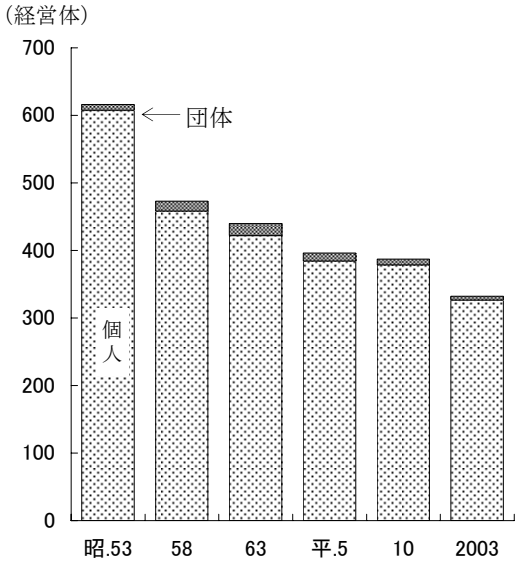
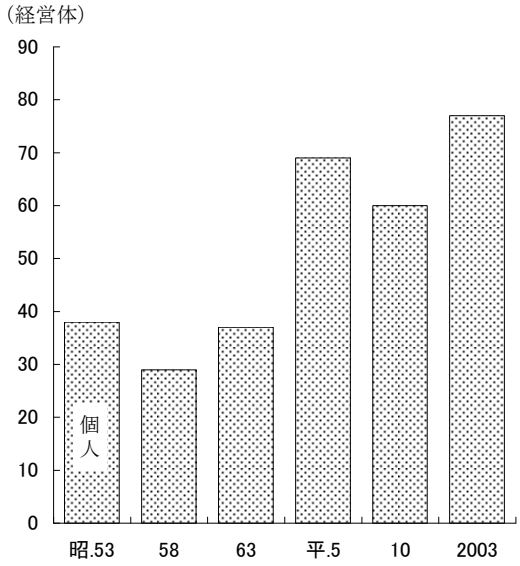


図27　経営組織別経営体数の推移（神西湖）



【経営体数は、宍道湖が減少傾向、神西湖増加傾向】

県内の湖沼（宍道湖、神西湖）の漁業経営体数は、個人経営体がそのほとんどを占めており、団体経営は宍道湖において6経営体が共同経営による操業をしている。

経営体数の推移をみると、宍道湖においては減少傾向となっており、前回調査（以下前回という。）に比べ55経営体（14%）減少し、332経営体となった。

一方、神西湖では、増加傾向となっており、前回はやや減少したものの、急増した平成5年調査と比べても9経営体増加し、調査対象湖沼となった第6次（昭和53年）以降で最も多い77経営体となった。

表27　経営組織別経営体数

単位:経営体・%

	区　　分	総　数	個　人	会　社	漁　協	生産組合	共同経営	官公庁・学校・試験場
宍道湖	昭.53（第　6次）	616	607	－	－	－	9	－
	58（　7　）	473	458	－	－	－	15	－
	63（　8　）	440	422	－	－	－	17	1
	平. 5（　9　）	396	384	－	－	－	12	－
	10（　10　）	387	378	－	－	－	9	－
	2003年（　11　）	**332**	**326**	**－**	**－**	**－**	**6**	**－**
	（構成比）	（100.0）	（98.2）	－	－	－	（1.8）	－
	11次－10次　増減数	△ 55	△ 52	－	－	－	△ 3	－
	11次／10次　増減率	△ 14.2	△ 13.8	－	－	－	△ 33.3	－
神西湖	昭.53（第　6次）	38	38	－	－	－	－	－
	58（　7　）	29	29	－	－	－	－	－
	63（　8　）	37	37	－	－	－	－	－
	平. 5（　9　）	69	69	－	－	－	－	－
	10（　10　）	60	60	－	－	－	－	－
	2003年（　11　）	**77**	**77**	**－**	**－**	**－**	**－**	**－**
	（構成比）	（100.0）	（100.0）	－	－	－	－	－
	11次－10次　増減数	17	17	－	－	－	－	－
	11次／10次　増減率	28.3	28.3	－	－	－	－	－

イ 経営体階層別経営体数

図28 経営体階層別経営体数の推移（宍道湖）

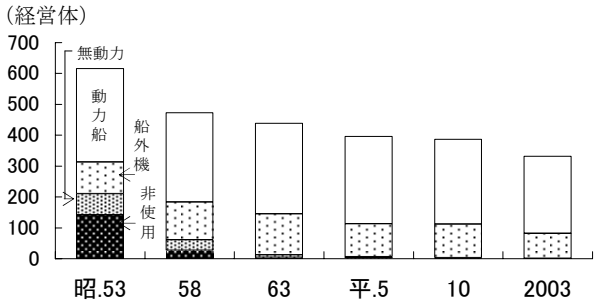


図29 経営体階層別経営体数の推移（神西湖）

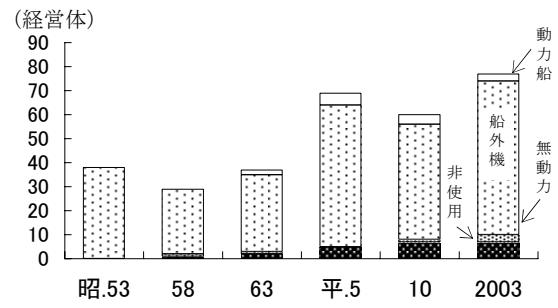


図30 経営体階層別経営体数の割合（宍道湖）

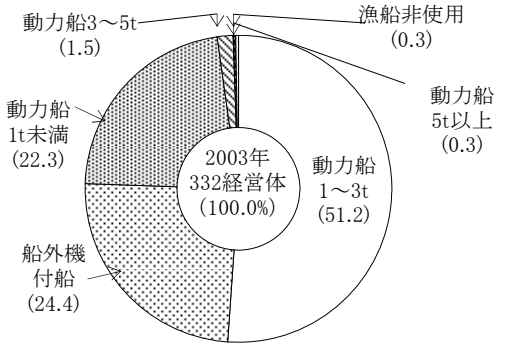
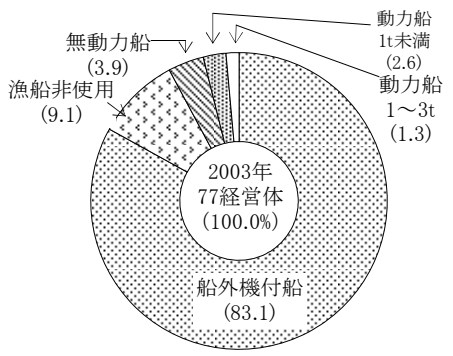


図31 経営体階層別経営体数の割合（神西湖）



【宍道湖は動力船階層が過半数、神西湖は船外機船階層主体】

階層別漁業経営体数は、宍道湖では、動力船階層が75%を占め、そのうち動力船1～3トン階層が最も多く170経営体となっている。経営体が減少傾向のなか、動力船1トン未満の階層では前回に比べ18経営体（32%）増加しているが、これは漁船の更新等で他の階層からの移動によるものである。

また、漁船非使用及び無動力船階層は、主として投網やその他の網漁業を営む経営体が中心であったが、高齢化、魚類資源の減少等から同階層の経営体は1経営体を残すのみとなった。なお、3トン以上の経営体は複数の動力船を所有する経営体である。

一方、神西湖では、船外機付船階層が83%を占め、前回に比べると16経営体増加し、64経営体となった。

表28 経営体階層別経営体数

単位:経営体・%

区分		総数	漁船非使用	無動力船	船外機付船	動力船				魚類養殖	その他の養殖
						1トン未満	1～3	3～5	5トン以上		
宍道湖	昭.53(第 6次)	616	142	69	102	75	222	6	－	－	－
	58(7)	473	27	34	123	30	234	23	2	－	－
	63(8)	440	4	8	133	44	233	15	2	1	－
	平. 5(9)	396	2	4	107	34	236	8	5	－	－
	10(10)	387	1	2	109	56	212	7	－	－	－
	2003年(11)	**332**	**1**	**－**	**81**	**74**	**170**	**5**	**1**	**－**	**－**
	(構成比)	(100.0)	(0.3)	－	(24.4)	(22.3)	(51.2)	(1.5)	(0.3)	－	－
	11次－10次 増減数	△ 55	0	△ 2	△ 28	18	△ 42	△ 2	1	－	－
	11次／10次 増減率	△ 14.2	0	－	△ 25.7	32.1	△ 19.8	△ 28.6	－	－	－
神西湖	昭.53(第 6次)	38	－	－	38	－	－	－	－	－	－
	58(7)	29	1	1	27	－	－	－	－	－	－
	63(8)	37	2	1	32	1	1	－	－	－	－
	平. 5(9)	69	5	－	59	3	2	－	－	－	－
	10(10)	60	7	1	48	2	2	－	－	－	－
	2003年(11)	**77**	**7**	**3**	**64**	**2**	**1**	**－**	**－**	**－**	**－**
	(構成比)	(100.0)	(9.1)	(3.9)	(83.1)	(2.6)	(1.3)	－	－	－	－
	11次－10次 増減数	17	0	2	16	0	△ 1	－	－	－	－
	11次／10次 増減率	28.3	0. 0	200.0	33.3	0. 0	△ 50.0	－	－	－	－

ウ 主とする漁業種類別経営体数

図32 主とする漁業種類別経営体数の推移（宍道湖）

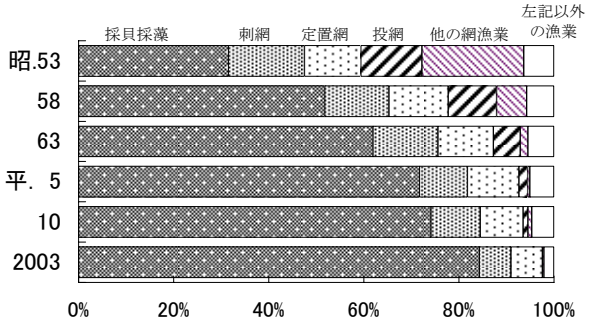


図33 主とする漁業種類別経営体数の推移（神西湖）

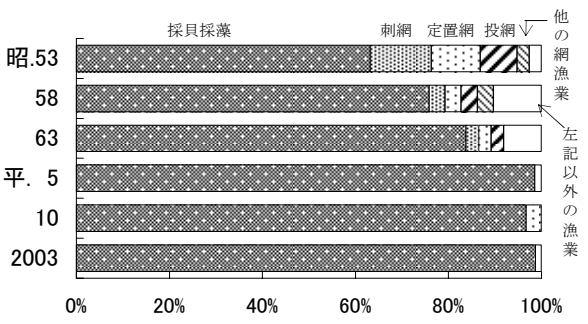


図34 主とする漁業種類別経営体数の割合（宍道湖）

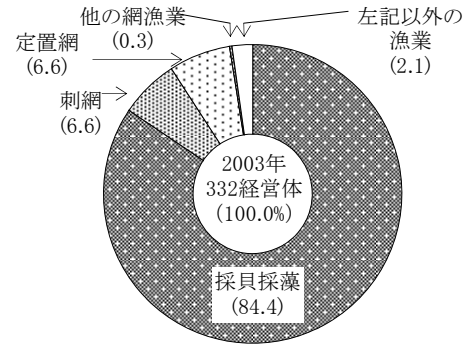
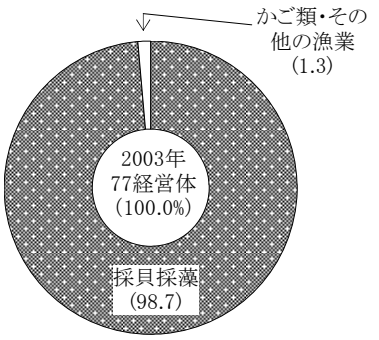


図35 主とする漁業種類別経営体数の割合（神西湖）



【宍道湖、神西湖ともに採貝・採藻漁業主体】

主とする漁業種類別経営体数は、宍道湖では、採貝・採藻漁業が280経営体（84%）を占め、次いで、刺網、定置網が共に22経営体（7%）となっている。漁業管理の徹底により経営の安定している採貝・採藻漁業「主産物しじみ」では、経営体の減少率は小さいが、魚類資源の減少と消費志向の変化等の影響による網漁業の減少率が大きく、年々採貝・採藻漁業の構成割合が増加している。

一方、神西湖では平成5年調査において、網漁業を主とする経営体は無くなり、その後の10年間は採貝・採藻を主とする経営体が100%近くを占める状況が続いている。

表29 主とする漁業種類別経営体数

単位:経営体・%

	区分	総数	網漁業					釣・はえ縄	採貝採藻	かご類・その他の漁業	養殖
			刺網	敷網	定置網	投網	他の網漁業				
宍道湖	昭.53(第 6次)	616	99	1	73	79	132	7	194	31	－
	58(7)	473	64	1	59	48	30	3	245	23	－
	63(8)	440	60	－	51	25	7	3	272	21	1
	平. 5(9)	396	40	1	43	7	2	2	284	17	－
	10(10)	387	40	－	35	4	3	7	287	11	－
	2003年(11)	**332**	**22**	**－**	**22**	**－**	**1**	**1**	**280**	**6**	**－**
	(構成比)	(100.0)	(6.6)	－	(6.6)	－	(0.3)	(0.3)	(84.4)	(1.8)	－
	11次－10次 増減数	△ 55	△ 18	－	△ 13	△ 4	△ 2	△ 6	△ 7	△ 5	－
	11次／10次 増減率	△ 14.2	△ 45.0	－	△ 37.1	－	△ 66.7	△ 85.7	△ 2.4	△ 45.5	－
神西湖	昭.53(第 6次)	38	5	－	4	3	1	－	24	1	－
	58(7)	29	1	－	1	1	1	1	22	2	－
	63(8)	37	1	－	1	1	－	－	31	3	－
	平. 5(9)	69	－	－	－	－	－	－	68	1	－
	10(10)	60	－	－	2	－	－	－	58	－	－
	2003年(11)	**77**	**－**	**－**	**－**	**－**	**－**	**－**	**76**	**1**	**－**
	(構成比)	(100.0)	－	－	－	－	－	－	(98.7)	(1.3)	－
	11次－10次 増減数	17	－	－	△ 2	－	－	－	18	1	－
	11次／10次 増減率	28.3	－	－	－	－	－	－	31.0	－	－

エ　主な漁獲魚種別経営体数

図36　主な漁獲魚種別経営体数の推移（宍道湖）

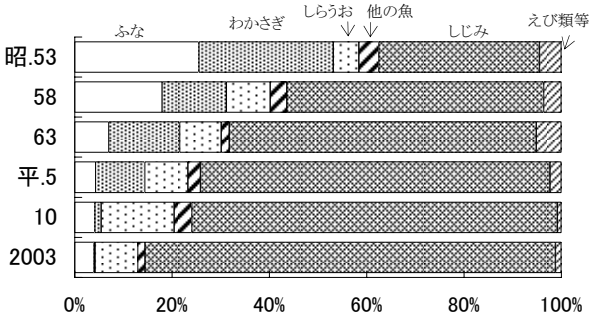


図37　主な漁獲魚種別経営体数の推移（神西湖）

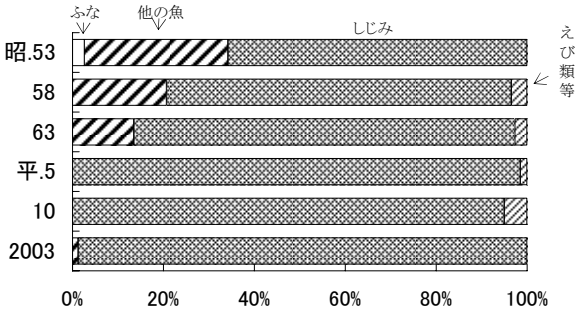


図38　主な漁獲魚種別経営体数の割合（宍道湖）

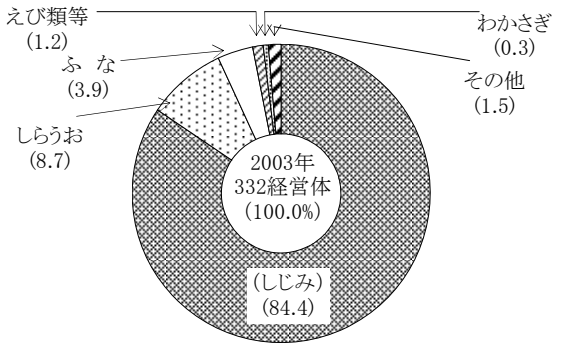
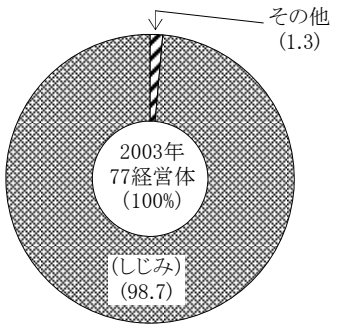


図39　主な漁獲魚種別経営体数の割合（神西湖）



【宍道湖、神西湖ともに主な漁獲対象は「しじみ」】

主な漁獲魚種別経営体数は、宍道湖では、しじみが280経営体（84％）を占めており、次いで、しらうおが29経営体（9％）、ふなが13経営体（4％）、それ以外は1％前後となっている。特に、わかさぎを主とする経営体の減少は、平成5年以降顕著であり、資源の枯渇が心配されている。

また、魚類全体をみると環境悪化による資源の減少と、消費志向の変化等の影響から、昭和53年には6割（388経営体）を占めていたものが、2003年には1割（48経営体）まで減少した。

一方、神西湖では、魚類を主とする経営体はごく僅かで、しじみを主な漁獲魚種とする経営体が76経営体で全体の99％を占めており、増加傾向となっている。

表30　主な漁獲魚種別経営体数

単位:経営体・％

区分		総数	魚類								貝類	水産動物
			こい	ふな	あゆ	わかさぎ	しらうお	うなぎ	はぜ類	その他	(しじみ)	(えび類等)
宍道湖	昭.53(第 6次)	616	6	155	2	168	32	15	4	6	201	27
	58(7)	473	5	84	－	62	42	11	2	3	247	17
	63(8)	440	8	30	1	63	37	5	－	2	272	22
	平. 5(9)	396	－	17	1	40	35	7	1	2	284	9
	10(10)	387	1	16	－	5	58	10	1	3	290	3
	2003年(11)	**332**	**－**	**13**	**－**	**1**	**29**	**3**	**－**	**2**	**280**	**4**
	(構成比)	(100.0)	－	(3.9)	－	(0.3)	(8.7)	(0.9)	－	(0.6)	(84.4)	(1.2)
	11次－10次 増減数	△ 55	△ 1	△ 3	－	△ 4	△ 29	△ 7	△ 1	△ 1	△ 10	1
	11次／10次 増減率	△ 14.2	－	△ 18.8	－	△ 80.0	△ 50.0	△ 70.0	－	△ 33.3	△ 3.4	33.3
神西湖	昭.53(第 6次)	38	－	1	－	－	－	1	－	11	25	－
	58(7)	29	－	－	－	－	－	2	－	4	22	1
	63(8)	37	－	－	－	－	－	3	－	2	31	1
	平. 5(9)	69	－	－	－	－	－	－	－	－	68	1
	10(10)	60	－	－	－	－	－	－	－	－	57	3
	2003年(11)	**77**	**－**	**－**	**－**	**－**	**－**	**1**	**－**	**－**	**76**	**－**
	(構成比)	(100.0)	－	－	－	－	－	(1.3)	－	－	(98.7)	－
	11次－10次 増減数	17	－	－	－	－	－	1	－	－	19	△ 3
	11次／10次 増減率	28.3	－	－	－	－	－	－	－	－	33.3	－

オ　湖上作業従事日数別経営体数（湖上作業日数29日以下含む）

図40　湖上作業従事日数別経営体数の推移（宍道湖）

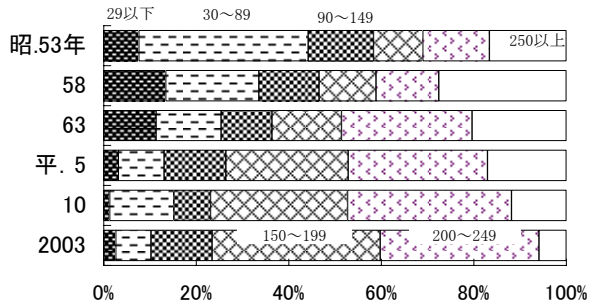


図41　湖上作業従事日数別経営体数の推移（神西湖）

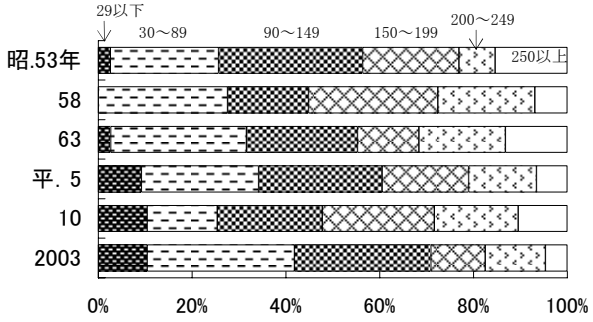


図42　湖上作業従事日数別経営体数の割合（宍道湖）

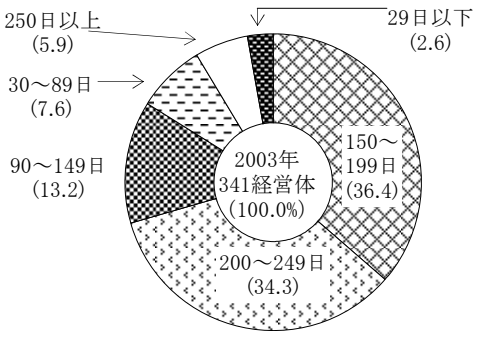
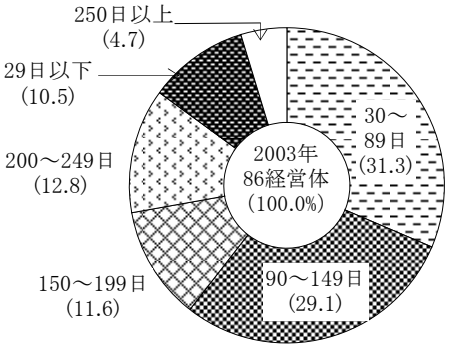


図43　湖上作業従事日数別経営体数の割合（神西湖）



【宍道湖は200日以上出漁が減少、神西湖は30～89日が増加】

湖上作業従事日数別経営体数は、宍道湖では、150日～199日階層の124経営体と、200日～249日階層の117経営体で全体の7割を占めている。これは、専らしじみ漁（しじみ漁業での取決め週4日操業、年間208日以内）と、しじみ漁の傍ら網漁業やその他の漁業を営む経営体の8割に当たる226経営体が、この2階層に分布していることによる。

また、昭和58年に150経営体あった250日以上階層は、しじみ漁における漁業管理の取組みと、魚類資源の減少により、20経営体（6%）に減少した。

一方、神西湖では、30～89日階層の27経営体と、90～149日階層の25経営体で全体の6割を占め、その他の階層がそれぞれ1割程度となっており、250日以上操業する経営体は4経営体（5%）となっている。

表31　湖上作業従事日数別経営体数

単位:経営体・%

	区　　分	総　数	29日以下	30～89日	90～149日	150～199日	200～249日	250日以上
宍道湖	昭.53（第　6次）	667	51	244	94	71	96	111
	58（　7　）	545	73	110	71	67	74	150
	63（　8　）	492	56	69	54	74	139	100
	平. 5（　9　）	405	13	40	54	107	122	69
	10（　10　）	389	5	54	31	115	138	46
	2003年（　11　）	**341**	**9**	**26**	**45**	**124**	**117**	**20**
	（構成比）	（100.0）	（2.6）	（7.6）	（13.2）	（36.4）	（34.3）	（5.9）
	11次－10次　増減数	△ 48	4	△ 28	14	9	△ 21	△ 26
	11次／10次　増減率	△ 12.3	80.0	△ 51.9	45.2	7.8	△ 15.2	△ 56.5
神西湖	昭.53（第　6次）	39	1	9	12	8	3	6
	58（　7　）	29	－	8	5	8	6	2
	63（　8　）	38	1	11	9	5	7	5
	平. 5（　9　）	76	7	19	20	14	11	5
	10（　10　）	67	7	10	15	16	12	7
	2003年（　11　）	**86**	**9**	**27**	**25**	**10**	**11**	**4**
	（構成比）	（100.0）	（10.5）	（31.3）	（29.1）	（11.6）	（12.8）	（4.7）
	11次－10次　増減数	19	2	17	10	△ 6	△ 1	△ 3
	11次／10次　増減率	28.4	28.6	170.0	66.7	△ 37.5	△ 8.3	△ 42.9

カ 販売金額別経営体数

図44 販売金額別経営体数の推移(宍道湖)

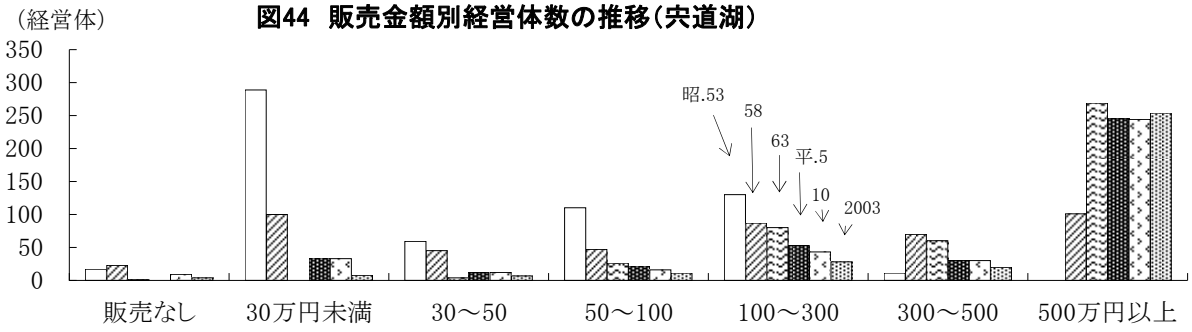
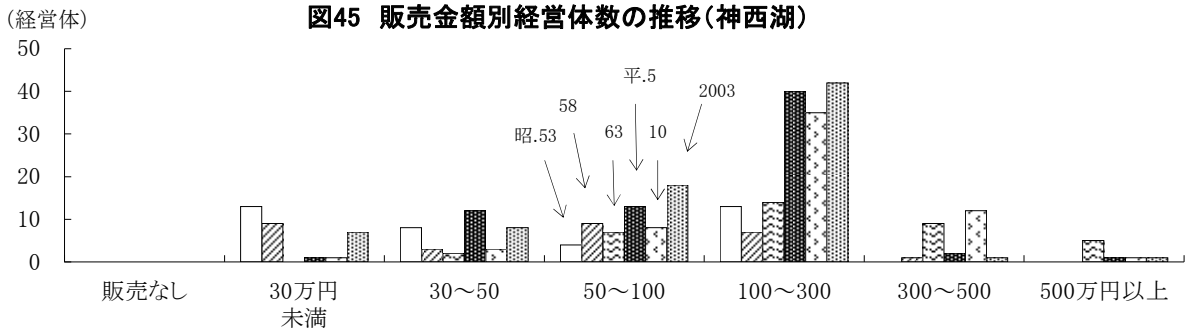


図45 販売金額別経営体数の推移(神西湖)



【宍道湖は500万円以上で安定、神西湖は経営体の増減が階層移動に影響】

販売金額別経営体数は、宍道湖では、昭和58年調査以降、販売金額500万円以上の階層の経営体が最も多く、その構成割合は58年が21%であったものが、63年には急増し60%を超え、その後も実経営体の減少はあるものの構成割合は増加し、2003年は前回に比べ10経営体増加し254経営体で全体の77%を占めている。その他の階層では、100万円以下の階層で40経営体が減少し、構成割合も9%と半減した。また、100～500万円の階層では25経営体が減少し、構成割合は4ポイントの減少となった。

一方、神西湖では、100～300万円の階層が42経営体で最も多く、全体の55%を占めている。年次別には、平成5年調査において、倍増した経営体は100～300万円の階層に多くが分布し、300万円以上の階層が減少した。平成10年調査では50万円以下の経営体の減少もあり、300万円を境に上位階層への移動がうかがえる。

また、2003年調査で増加した経営体は、100万円以下の階層へ多くが分布しており、300万円以上の経営体は下位階層に移り、平成5年と同じ動きを示しており、漁獲努力量と資源量が均衡している状況がうかがえる。

表32 販売金額別経営体数

単位:経営体・%

	区分	総数	販売なし	10万円未満	10～30	30～50	50～100	100～200	200～300	300～500	500万円以上
宍道湖	昭.53(第 6次)	616	17	203	86	59	110	85	45	11	-
	58(7)	473	23	100		45	47	46	41	70	101
	63(8)	440	1	-	-	4	26	80		60	269
	平. 5(9)	396	-	22	12	12	22	53		30	245
	10(10)	387	9	14	19	12	16	43		30	244
	2003年(11)	**332**	**4**	**4**	**4**	**7**	**11**	**28**		**20**	**254**
	(構成比)	(100.0)	(1.2)	(1.2)	(1.2)	(2.1)	(3.3)	(8.5)		(6.0)	(76.5)
	11次－10次 増減数	△ 55	△ 5	△ 10	△ 15	△ 5	△ 5	△15		△ 10	10
	11次／10次 増減率	△ 14.2	△ 55.6	△ 71.4	△ 78.9	△ 41.7	△ 31.3	△34.9		△ 33.3	4.1
神西湖	昭.53(第 6次)	38	-	2	11	8	4	11	2	-	-
	58(7)	29	-	9		3	9	5	2	1	-
	63(8)	37	-	-	-	2	7	14		9	5
	平. 5(9)	69	-	-	1	12	13	40		2	1
	10(10)	60	-	1	-	3	8	35		12	1
	2003年(11)	**77**	**-**	**1**	**6**	**8**	**18**	**42**		**1**	**1**
	(構成比)	(100.0)	-	(1.3)	(7.8)	(10.4)	(23.4)	(54.5)		(1.3)	(1.3)
	11次－10次 増減数	17	-	0	6	5	10	7		△ 11	0
	11次／10次 増減率	28.3	-	0. 0	-	166.7	125.0	20.0		△ 91.7	0. 0

（2） 個人漁業経営体

ア 専兼業別・主とする兼業種類別個人経営体数

図46 専兼別個人経営体数の推移（宍道湖）

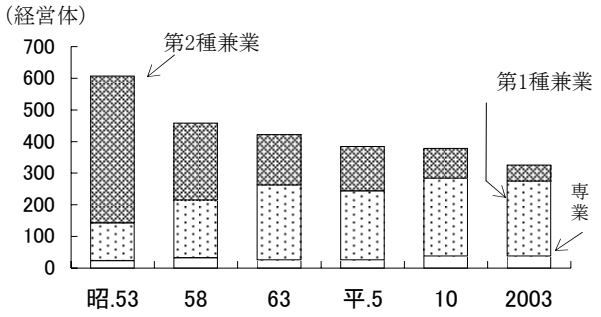


図47 専兼別個人経営体数の推移（神西湖）

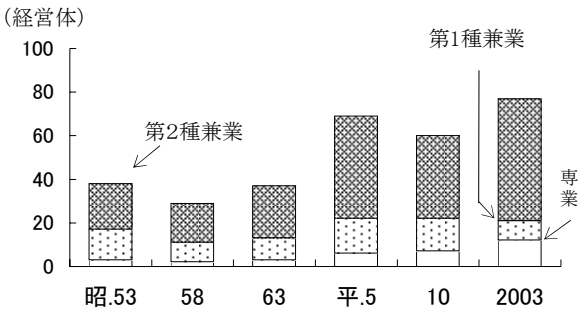


図48 主とする兼業種類別個人経営体数の割合（宍道湖）

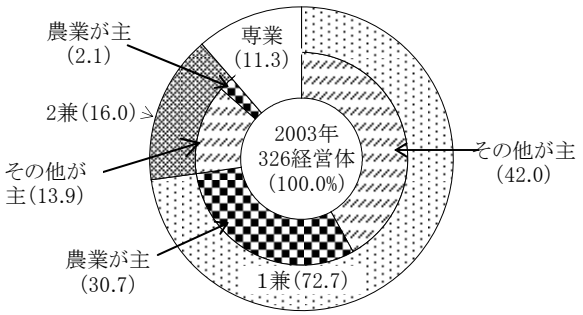
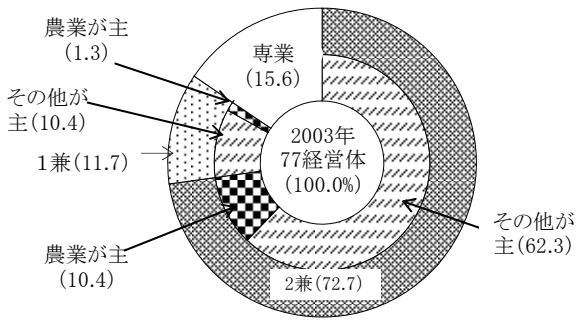


図49 主とする兼業種類別個人経営体数の割合（神西湖）



【漁業が主業の宍道湖、従の神西湖】

個人経営体の専兼業別経営体数は、宍道湖では、専業が37経営体で、前回と同数であったが、兼業経営体は、漁業者の高齢化等で52経営体が減少し、減少した経営体の8割以上が第2種兼業階層からの減少となった。

また、しじみ漁の漁業管理効果やブランド化によるしじみ価格の上昇等で経営の安定が図られた結果、専業及び第1種兼業の構成比は年々増加し、2003年は84%となった。

一方、経営体が増加した神西湖では、第1種兼業からの移動で専業が5経営体増加した。第2種兼業は18経営体増加し、全体の73%を占め、副業として漁業を営む世帯が増加している。

表33 専兼業別・主とする兼業種類別個人経営体数

単位:経営体・%

区分		総数	専業	兼業					
				第1種兼業			第2種兼業		
				小計	農業	その他	小計	農業	その他
宍道湖	昭.53(第 6次)	607	23	120	89	31	464	279	185
	58(7)	458	32	182	154	28	244	108	136
	63(8)	422	25	237	133	104	160	37	123
	平. 5(9)	384	25	219	87	132	140	24	116
	10(10)	378	37	246	118	128	95	14	81
	2003年(11)	**326**	**37**	**237**	**100**	**137**	**52**	**7**	**45**
	(構成比)	(100.0)	(11.3)	(72.7)	(30.7)	(42.0)	(16.0)	(2.1)	(13.9)
	11次－10次 増減数	△ 52	0	△ 9	△ 18	9	△ 43	△ 7	△ 36
	11次／10次 増減率	△ 13.8	0. 0	△ 3.7	△ 15.3	7.0	△ 45.3	△ 50.0	△ 44.4
神西湖	昭.53(第 6次)	38	3	14	8	6	21	5	16
	58(7)	29	2	9	7	2	18	4	14
	63(8)	37	3	10	3	7	24	3	21
	平. 5(9)	69	6	16	1	15	47	13	34
	10(10)	60	7	15	3	12	38	7	31
	2003年(11)	**77**	**12**	**9**	**1**	**8**	**56**	**8**	**48**
	(構成比)	(100.0)	(15.6)	(11.7)	(1.3)	(10.4)	(72.7)	(10.4)	(62.3)
	11次－10次 増減数	17	5	△ 6	△ 2	△ 4	18	1	17
	11次／10次 増減率	28.3	71.4	△ 40.0	△ 66.7	△ 33.3	47.4	14.3	54.8

（3） 自営漁業就業者

ア 専兼業別・主とする就業区分別漁業就業者数

図50 専兼別就業者数の推移（宍道湖）

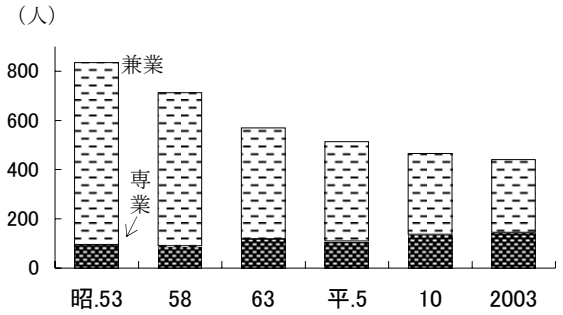


図51 専兼別就業者数の推移（神西湖）

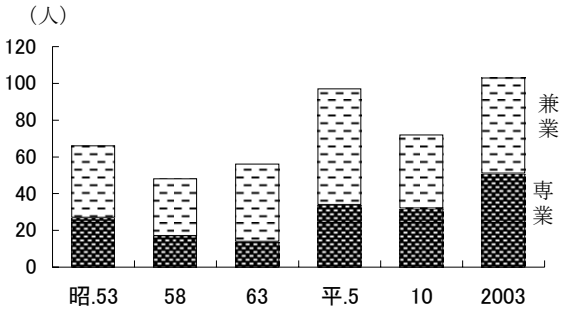


図52 主とする就業区分別就業者数の割合（宍道湖）

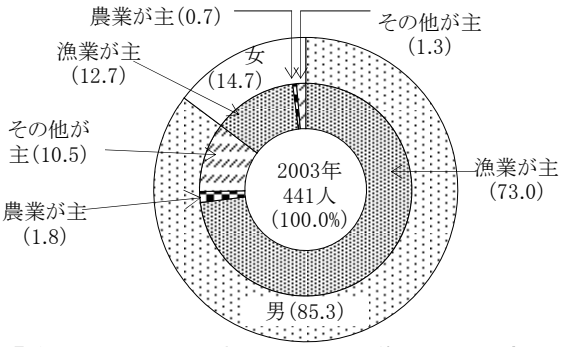
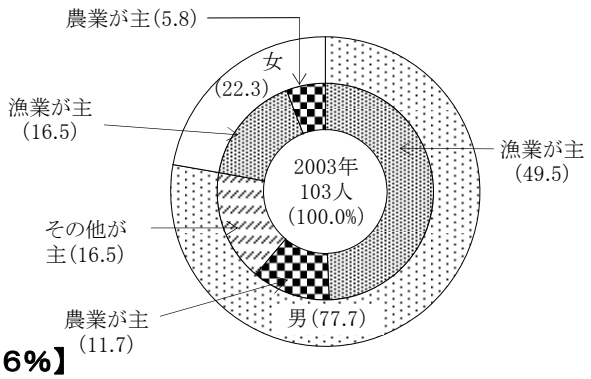


図53 主とする就業区分別就業者数の割合（神西湖）



【漁業を主とする就業者は宍道湖86%、神西湖66%】

専兼業別漁業就業者数は、宍道湖では、漁業を専業とする就業者が前回に比べ8人増加して145人となり、年々構成比が増加し33%となった。

また、宍道湖全体では前回に比べ25人（5%）の就業者が減少したが、自営漁業を主とする兼業就業者からの減少が21人で最も多く、これは、高齢化、魚類資源の減少等による休廃業によるものである。

一方、神西湖では、17経営体の増加に伴い、前回に比べ31人（43%）の大幅な増加となり、うち専業就業者の増加が多く専兼業それぞれ5割程度の構成となった。就業区分別には、男性女性とも自営漁業を主とする就業者が最も多く、全体の66%を占めている。

表34 専兼業別・主とする就業区分別漁業就業者数

単位：人・%

区分		総数	専兼業別		主とする就業区分別							
			専業	兼業	男子				女子			
					計	自営漁業	自営農業	その他	計	自営漁業	自営農業	その他
宍道湖	昭.53(第 6次)	835	95	740	662	251	269	142	173	73	90	10
	58(7)	713	90	623	508	291	107	110	205	69	116	20
	63(8)	570	119	451	466	356	49	61	104	79	18	7
	平. 5(9)	514	109	405	426	327	34	65	88	67	18	3
	10(10)	466	137	329	406	344	15	47	60	55	3	2
	2003年(11)	**441**	**145**	**296**	**376**	**322**	**8**	**46**	**65**	**56**	**3**	**6**
	（構成比）	(100.0)	(32.9)	(67.1)	(85.3)	(73.0)	(1.8)	(10.5)	(14.7)	(12.7)	(0.7)	(1.3)
	11次－10次 増減数	△ 25	8	△ 33	△ 30	△ 22	△ 7	△ 1	5	1	0	4
	11次／10次 増減率	△ 5.4	5.8	△ 10.0	△ 7.4	△ 6.4	△ 46.7	△ 2.1	8.3	1.8	0. 0	200.0
神西湖	昭.53(第 6次)	66	27	39	45	25	6	14	21	17	3	1
	58(7)	48	17	31	31	17	4	10	17	11	4	2
	63(8)	56	14	42	41	22	5	14	15	7	6	2
	平. 5(9)	97	34	63	74	42	13	19	23	14	6	3
	10(10)	72	32	40	62	43	8	11	10	8	1	1
	2003年(11)	**103**	**51**	**52**	**80**	**51**	**12**	**17**	**23**	**17**	**6**	**－**
	（構成比）	(100.0)	(49.5)	(50.5)	(77.7)	(49.5)	(11.7)	(16.5)	(22.3)	(16.5)	(5.8)	－
	11次－10次 増減数	31	19	12	18	8	4	6	13	9	5	△ 1
	11次／10次 増減率	43.1	59.4	30.0	29.0	18.6	50.0	54.5	130.0	112.5	500.0	△ 100.0

イ 性別・年齢別漁業就業者数

図54 性別・年齢別就業者数の推移（宍道湖）

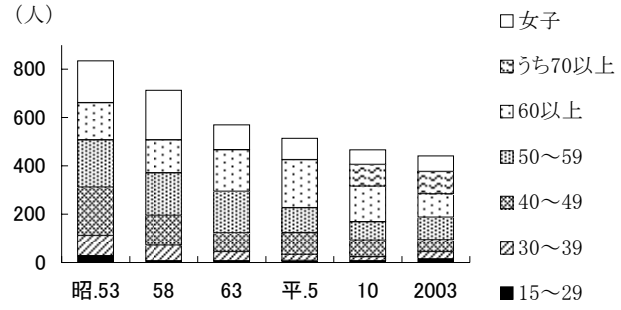


図55 性別・年齢別就業者数の推移（神西湖）

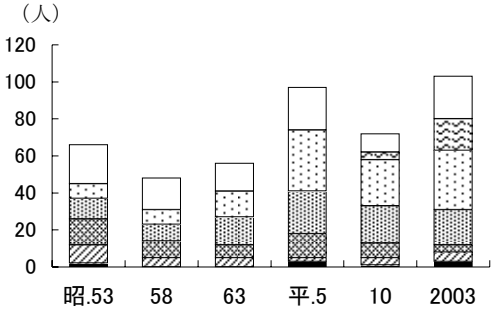


図56 性別・年齢別就業者数の割合（宍道湖）

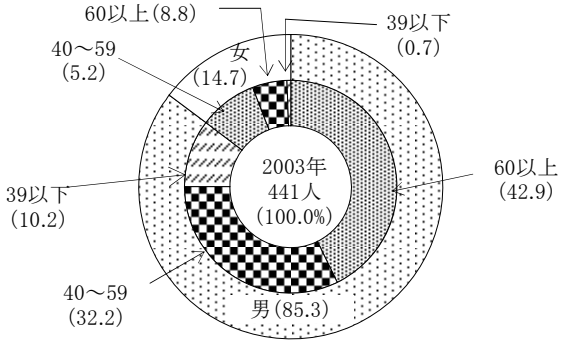
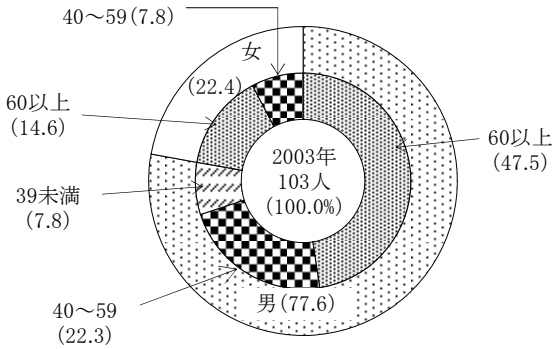


図57 性別・年齢別就業者数の割合（神西湖）



【60歳以上の漁業就業者が半数以上を占める】

性別・年齢別漁業就業者数は、宍道湖では、男性就業者が85％を占めており、60歳以上が189人（43％）で、うち93人（21％）が70歳以上の就業者となっている。女性就業者は65人で、うち60歳以上が39人を占め全体の9％となっており、全就業者の50％以上が60歳以上で高齢化が進んでいる。

なお、全体の就業者が減少しているなかで、前回に比べ29歳以下で8人、39歳以下で13人が増加しており、後継者への世代交代も行われている。

一方、経営体が増加した神西湖では、39歳以下の男性が3人増加したものの、男性女性ともに60歳以上の就業者の増加がほとんどを占め、他産業を退職後に夫婦で漁業へ就業していることがうかがえる。

表35 性別・年齢別漁業就業者数

単位：人・％

区分		総数	男子						女子			
			15～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70歳以上	40歳未満	40～59	60～69	70歳以上
宍道湖	昭.53(第 6次)	835	28	84	199	197	154		33	121	19	
	58(7)	713	7	64	124	176	137		23	144	38	
	63(8)	570	6	39	77	172	172		6	67	31	
	平. 5(9)	514	8	25	90	103	200		2	31	55	
	10(10)	466	7	17	68	76	147	91	1	26	21	12
	2003年(11)	**441**	**15**	**30**	**48**	**94**	**96**	**93**	**3**	**23**	**26**	**13**
	(構成比)	(100.0)	(3.4)	(6.8)	(10.9)	(21.3)	(21.8)	(21.1)	(0.7)	(5.2)	(5.9)	(2.9)
	11次－10次 増減数	△ 25	8	13	△ 20	18	△ 51	2	2	△ 3	0	1
	11次／10次 増減率	△ 5.4	114.3	76.5	△ 29.4	23.7	△ 34.7	2.2	200.0	△ 11.5	23.8	8.3
神西湖	昭.53(第 6次)	66	2	10	14	11	8		5	13	3	
	58(7)	48	－	5	9	9	8		8	9	－	
	63(8)	56	－	5	7	15	14		－	9	6	
	平. 5(9)	97	3	2	13	23	33		1	13	9	
	10(10)	72	1	4	8	20	25	4	1	6	2	1
	2003年(11)	**103**	**3**	**5**	**4**	**19**	**32**	**17**	**－**	**8**	**12**	**3**
	(構成比)	(100.0)	(2.9)	(4.9)	(3.9)	(18.4)	(31.0)	(16.5)	－	(7.8)	(11.7)	(2.9)
	11次－10次 増減数	31	2	1	△ 4	△ 1	7	13	△ 1	2	10	2
	11次／10次 増減率	43.1	200.0	25.0	△ 50.0	△ 5.0	28.0	325.0	-	33.3	500.0	200.0

（4）保 有 漁 船

ア 保有漁船種類別隻数トン数

図58 漁船隻数の推移（宍道湖）

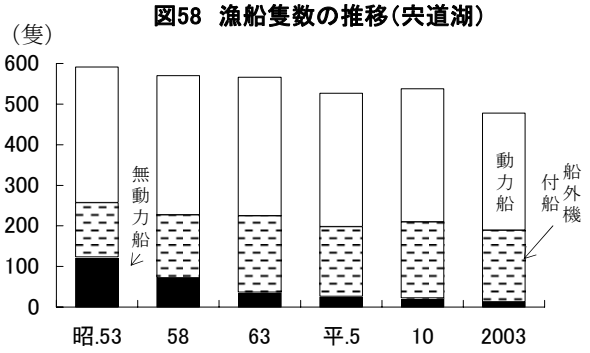


図59 漁船隻数の推移（神西湖）

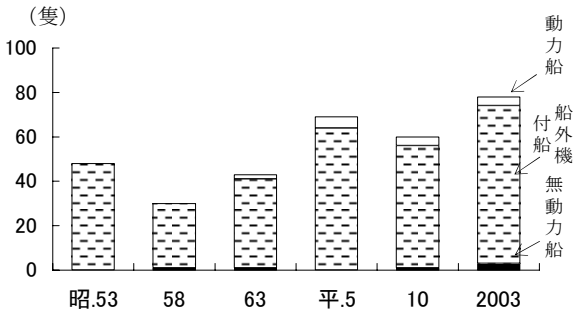


図60 動力船隻数と平均トン数の推移（宍道湖）

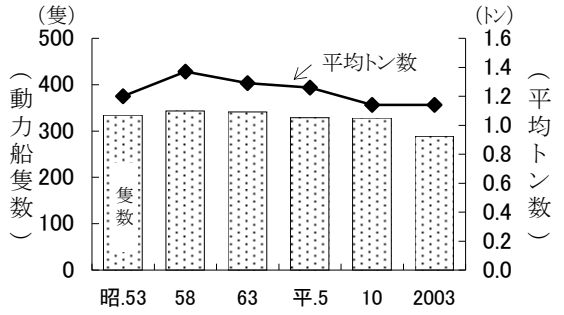
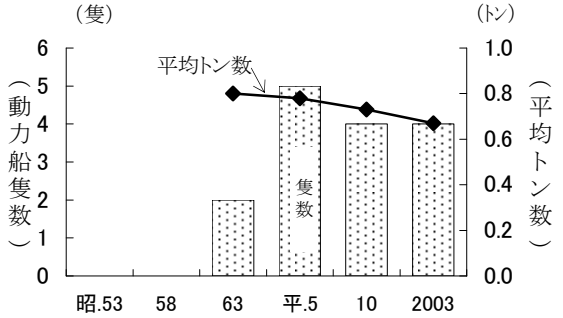


図61 動力船隻数と平均トン数の推移（神西湖）



【宍道湖の漁船1割減少、神西湖は3割増加】

保有漁船隻数は、宍道湖では、前回に比べ60隻（11％）の減少となり、種類別には動力船が39隻減少し、次いで船外機付船が12隻、無動力船が9隻の減少となった。構成比をみると、動力船は289隻で減少傾向にあるものの、全体の6割程度を維持しており、次いで船外機付船が176隻（37％）で、年々構成割合は増加する傾向となっている。

一方、神西湖では、使用動力船は僅かで、主に船外機付船が利用されており、全体の91％を占める71隻となっている。

また、経営体の増加により船外機付船は、前回に比べ16隻（29％）の増加となった。

表36 保有漁船種類別隻数・トン数

単位：隻・トン

	区　　分	総 隻 数	無動力船	船外機付船	動力船		
					隻　数	合計トン数	平均トン数
宍道湖	昭.53（第 6次）	591	123	134	334	400.57	1.20
	58（ 7 ）	570	72	155	343	471.32	1.37
	63（ 8 ）	566	36	189	341	440.70	1.29
	平. 5（ 9 ）	527	26	172	329	413.95	1.26
	10（ 10 ）	538	22	188	328	375.47	1.14
	2003年（ 11 ）	**478**	**13**	**176**	**289**	**330.46**	**1.14**
	（構成比）	（100.0）	（2.7）	（36.8）	（60.5）	－	－
	11次－10次 増減数	△ 60	△ 9	△ 12	△ 39	△45.01	0
	11次／10次 増減率	△ 11.2	△ 40.9	△ 6.4	△ 11.9	△ 12.0	0.0
神西湖	昭.53（第 6次）	48	－	48	－	－	－
	58（ 7 ）	30	1	29	－	－	－
	63（ 8 ）	43	1	40	2	1.09	0.80
	平. 5（ 9 ）	69	－	64	5	3.90	0.78
	10（ 10 ）	60	1	55	4	2.90	0.73
	2003年（ 11 ）	**78**	**3**	**71**	**4**	**2.69**	**0.67**
	（構成比）	（100.0）	（3.9）	（91.0）	（5.1）	－	－
	11次－10次 増減数	18	2	16	0	△0.21	△0.06
	11次／10次 増減率	30.0	200.0	29.1	0.0	△ 7.2	△ 8.2

2 内水面養殖業に関する統計
（1） 養殖業経営体
ア 経営組織別経営体数

図62 経営組織別経営体数の推移

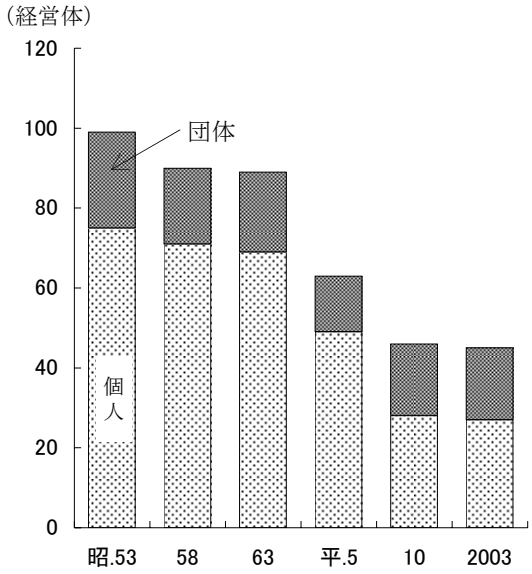
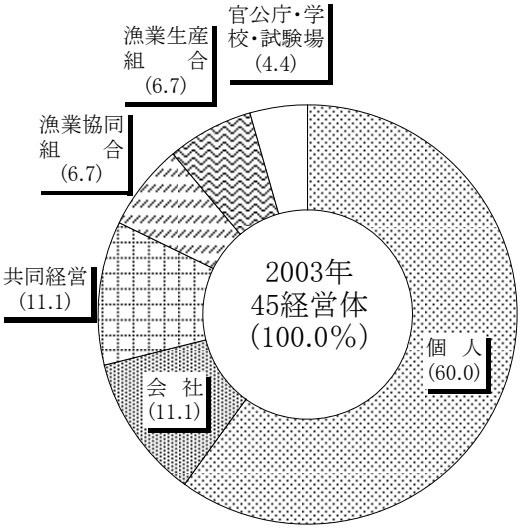


図63 経営組織別構成割合



【経営体数は、前回調査並み】

県内の内水面養殖業経営体は45経営体で、前回に比べ1経営体（2%）の減少となった。経営組織別には、個人経営体は27経営体（60%）で、前回に比べ1経営体の減少となった。

団体経営体は、会社及び共同経営が共に5経営体で、共同経営体は2経営体減少した。

また、生産組合及び官公庁・学校・試験場はそれぞれ1経営体増加した。

表37 経営組織別経営体数

単位:経営体・%

区　　分	総　数	個 人	会 社	漁業協同組　合	漁業生産組　合	共同経営	官公庁学 校試験場
昭.53（第 6次）	99	75	3	4	5	9	3
58（ 7 ）	90	71	3	2	4	6	4
63（ 8 ）	89	69	5	4	1	8	2
平. 5（ 9 ）	63	49	3	2	1	6	2
10（ 10 ）	46	28	5	3	2	7	1
2003年（ 11 ）	**45**	**27**	**5**	**3**	**3**	**5**	**2**
（構成比）	（ 100.0）	（ 60.0）	（ 11.1）	（ 6.7）	（ 6.7）	（ 11.1）	（ 4.4）
11次－10次 増減数	△ 1	△ 1	0	0	1	△ 2	1
11次／10次 増減率	△ 2.2	△ 3.6	0．0	0．0	50.0	△ 28.6	100.0

イ 主とする養殖方法別経営体数

図64 養殖方法別経営体数の推移

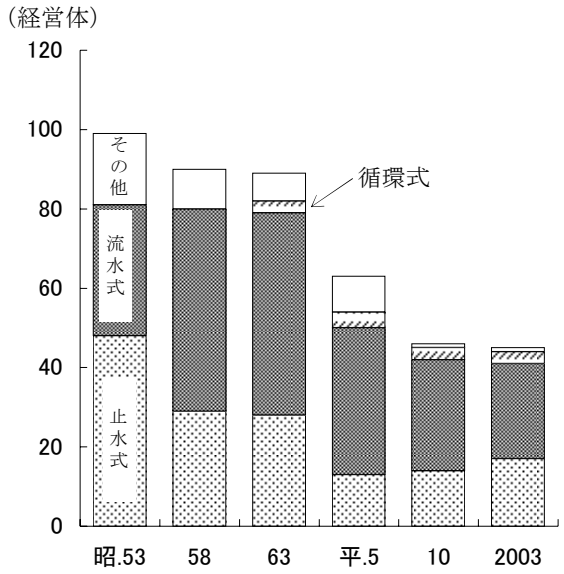
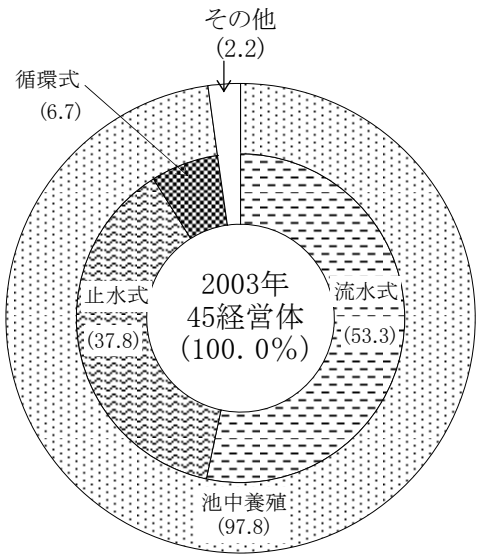


図65 養殖方法別経営体数の割合



【池中養殖方法が98%を占める】

主とする養殖方法別の経営体数は、池中養殖(養殖を目的に作られた人工の養殖池や、ため池・水田等で本来の目的がなくなり、養殖の目的で使われる施設)が全体の98%を占め、施設の他用途との併用や、水面の一部を使用する方法を主とする経営体は僅かで、養殖専用施設を使用する経営形態が中心となっている。

また、池中養殖のうち最も多い養殖方法は、流水式の24経営体で全体の53%を占め、次いで止水式が17経営体で38%となっている。

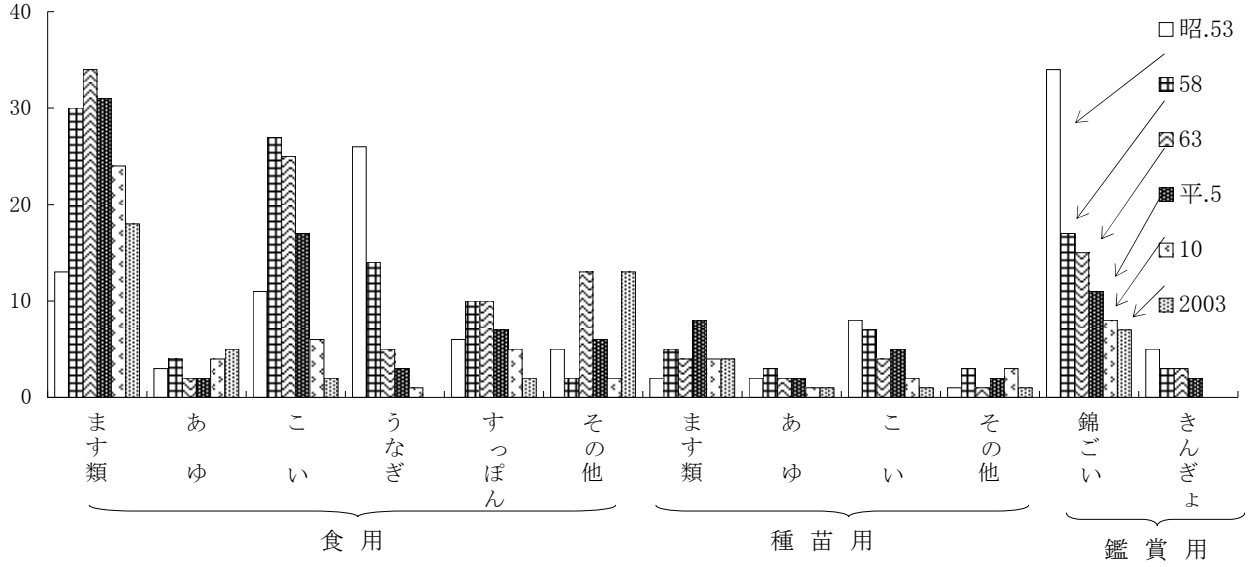
表38 主とする養殖方法別経営体数

単位:経営体・%

区　　分	総　数	池中養殖			ため池養殖	網いけす養殖その他の養殖
		止水式	流水式	循環式		
昭.53(第 6次)	99	48	33	…	17	1
58(7)	90	29	51	…	10	－
63(8)	89	28	51	3	6	1
平. 5(9)	63	13	37	4	8	1
10(10)	46	14	28	3	1	－
2003年(11)	**45**	**17**	**24**	**3**	**1**	**－**
(構成比)	(100.0)	(37.8)	(53.3)	(6.7)	(2.2)	－
11次－10次 増減数	△ 1	3	△ 4	0	0	－
11次／10次 増減率	△ 2.2	21.4	△ 14.3	0.0	0.0	－

ウ 養殖種類別経営体数(延数)

図66 養殖種類別経営体数(延数)



【その他の魚類養殖が大幅増加】

養殖種類別経営体数は、食用魚種が38経営体で、ます類、こい、うなぎ、すっぽん等で減少したものの、その他の魚類(どじょう)養殖が11経営体増加したことにより、前回並みとなった。

種苗用及び観賞用は、前回に比べそれぞれ1経営体の減少にとどまった。

表39 養殖種類別経営体数(延数)

単位:経営体・%

区分	総数(実数)	食用										
		小計(実数)	ます類			ﾃｨﾗﾋﾟｱ	あゆ	こい	ふな	うなぎ	すっぽん
			にじます	やまめ	その他						
昭.53(第 6次)	99	72	7	5	1	1	3	11	1	26	6
58(7)	90	75	5	22	3	1	4	27	−	14	10
63(8)	89	75	7	27	−	1	2	25	1	5	10
平. 5(9)	63	55	3	28	−	−	2	17	2	3	7
10(10)	46	38	1	23	−	−	4	6	−	1	5
2003年(11)	**45**	**38**	**1**	**17**		**…**	**5**	**2**	**−**	**−**	**2**
11次−10次 増減数	△ 1	0	0	△6		−	1	△ 4	−	△ 1	△ 3
11次／10次 増減率	△ 2.2	0.0	0.0	△26.1		…	25.0	△ 66.7	−	−	△ 60.0

区分	食用	種苗用					観賞用			
	その他	小計(実数)	ます類	あゆ	こい	うなぎ	その他	小計(実数)	錦ごい	きんぎょ	その他
昭.53(第 6次)	3	11	2	2	8	−	1	36	34	5	−
58(7)	1	13	5	3	7	−	3	18	17	3	−
63(8)	11	7	4	2	4	1	−	17	15	3	−
平. 5(9)	4	14	8	2	5	−	2	11	11	2	−
10(10)	2	6	4	1	2	−	3	8	8	−	−
2003年(11)	**13**	**5**	**4**	**1**	**1**	**…**	**1**	**7**	**7**	**−**	**−**
11次−10次 増減数	11	△ 1	0	0	△ 1	−	△ 2	△ 1	△ 1	−	−
11次／10次 増減率	550.0	△ 16.7	0.0	0.0	△ 50.0	…	△ 66.7	△ 12.5	△ 12.5	−	−

エ 販売金額別経営体数

図67 販売金額別経営体数の推移

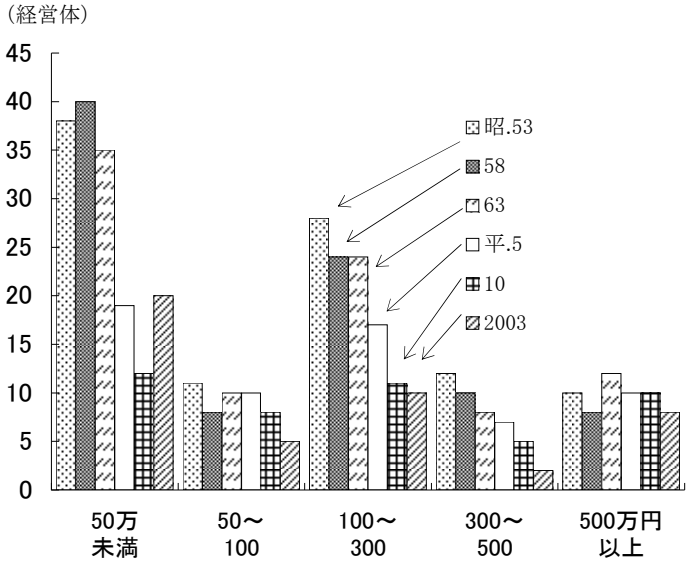
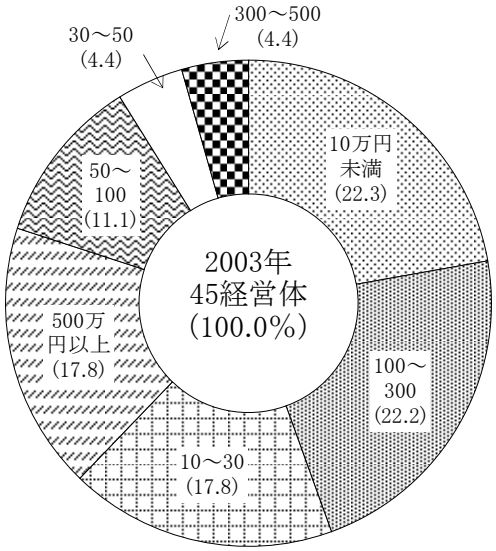


図68 販売金額別経営体の構成割合



【50万円未満の経営体が増加】

販売金額別の経営体数は、前回に比べ50万円を超える階層では全て減少し、増加した50万円未満の階層への移動がうかがえる。

2003年の構成割合をみると、増加した50万円未満の階層が全体の44%を占める20経営体で、次いで100万円～300万円未満の階層が10経営体(22%)、500万円以上の階層が8経営体(18%)の順となっている。

表40 販売金額別経営体数

単位:経営体・%

区　　分	総　数	10万円未満	10～30	30～50	50～100	100～300	300～500	500万円以上
昭.53(第 6次)	99	33		5	11	28	12	10
58(7)	90	40			8	24	10	8
63(8)	89	27	8	－	10	24	8	12
平. 5(9)	63	14	4	1	10	17	7	10
10(10)	46	9	3	－	8	11	5	10
2003年(11)	**45**	**10**	**8**	**2**	**5**	**10**	**2**	**8**
(構成比)	(100.0)	(22.3)	(17.8)	(4.4)	(11.1)	(22.2)	(4.4)	(17.8)
11次－10次 増減数	△ 1	1	5	2	△ 3	△ 1	△ 3	△ 2
11次／10次 増減率	△ 2.2	11.1	166.7	－	△ 37.5	△ 9.1	△ 60.0	△ 20.0

（2） 個人養殖業経営体
ア 専兼業別・主とする兼業種類別個人養殖業経営体数

図69 専兼業別個人養殖業経営体数の推移

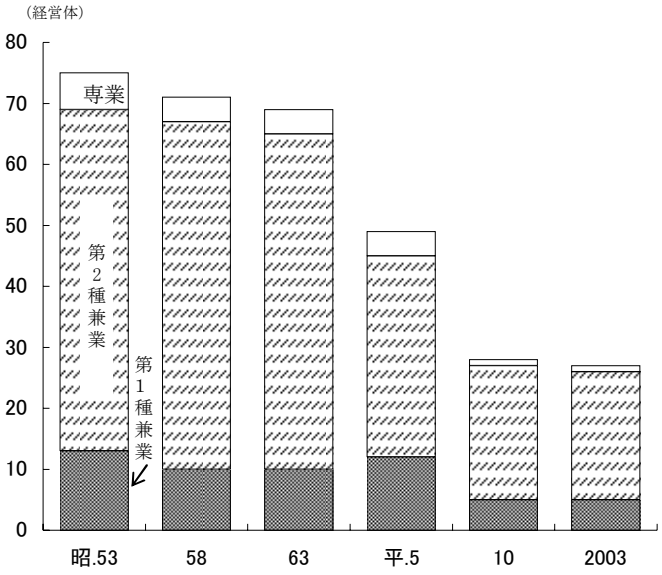
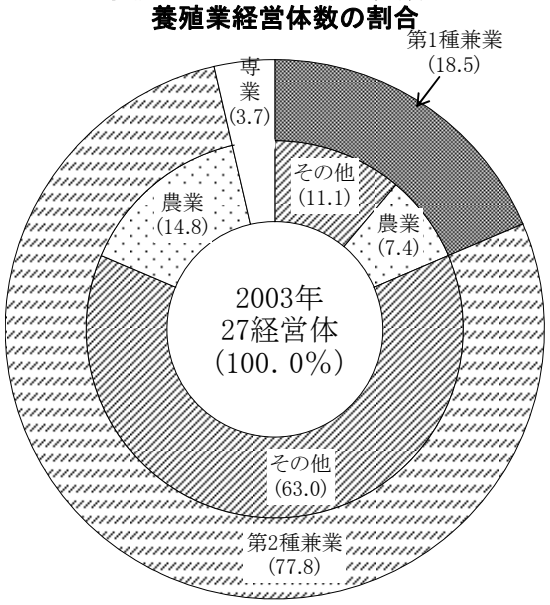


図70 専兼業別・主とする兼業種類別個人養殖業経営体数の割合



【第2種兼業が約8割を占める】

個人養殖業経営体の専兼業別経営体数は、専業が1経営体、第1種兼業が5経営体で、ともに前回と同数となった。

また、全体の78%を占める第2種兼業は、前回に比べ1経営体減少し21経営体となった。

なお、主とする兼業種類別では、農業を主業とする兼業経営体が6経営体で2割程度となっている。

表41 専兼業別・主とする兼業種類別個人養殖業経営体数

単位:経営体・%

区　　分	総　数	専　業	第 1 種 兼 業			第 2 種 兼 業		
			計	農　業	そ の 他	計	農　業	そ の 他
昭.53(第 6次)	75	6	13	11	2	56	21	35
58(7)	71	4	10	4	6	57	21	36
63(8)	69	4	10	1	9	55	10	45
平. 5(9)	49	4	12	5	7	33	7	26
10(10)	28	1	5	2	3	22	7	15
2003年(11)	**27**	**1**	**5**	**2**	**3**	**21**	**4**	**17**
(構成比)	(100.0)	(3.7)	(18.5)	(7.4)	(11.1)	(77.8)	(14.8)	(63.0)
11次－10次 増減数	△ 1	0	0	0	0	△ 1	△ 3	2
11次／10次 増減率	△ 3.6	0.0	0.0	0.0	0.0	△ 4.5	△ 42.9	13.3

（3） 養殖業就業者
ア 専兼業別・主とする就業区分別養殖業就業者

（人） **図71 専兼業別養殖業就業者数の推移**

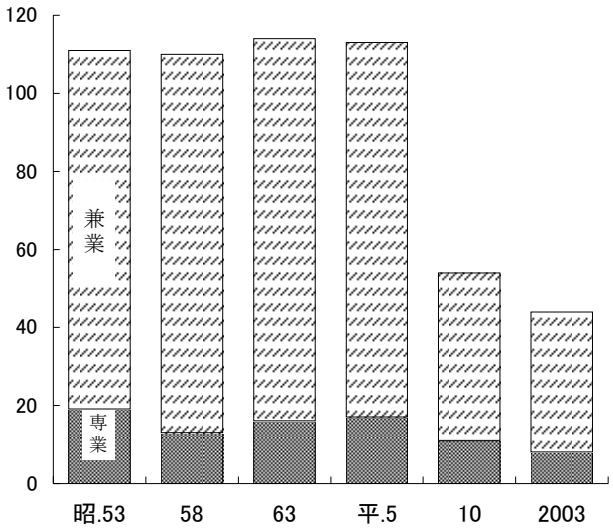
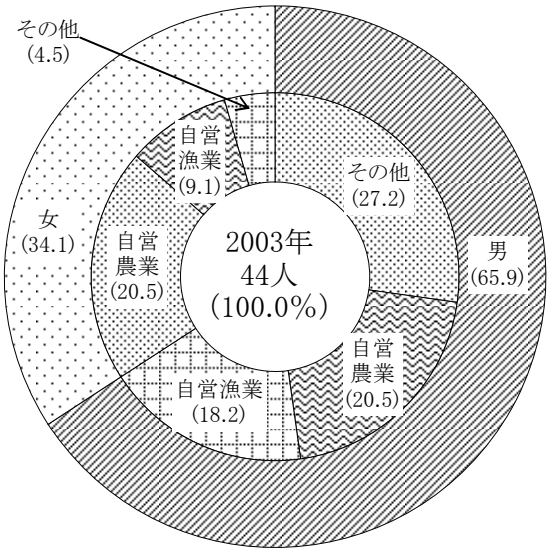


図72 主とする就業区分別養殖業就業者数の割合



【養殖就業者数約2割減少】

養殖業就業者数は、前回に比べ10人（19%）減少し、44人となった。

専兼業区分別では、専業が8人で（18%）、兼業が36人で全体の8割以上を占めている。

また、主とする就業区分別では、自営養殖業を主業とする就業者が12人（27%）、自営農業を主業とする者が18人（41%）、その他を主業としている者が14人（32%）で、経営体からみた主業は、その他の兼業が約8割に対し、実際に養殖業に携わる就業者は、農業と養殖業を主業とする割合が約7割となっている。

表42 専兼業別・主とする就業区分別養殖業就業者数

単位：人・%

区分	総数	専兼業別		主とする就業区分別							
				男子				女子			
		専業	兼業	計	自営漁業	自営農業	その他	計	自営漁業	自営農業	その他
昭.53（第 6次）	111	19	92	74	25	21	28	37	12	24	1
58（ 7 ）	110	13	97	78	18	28	32	32	10	18	4
63（ 8 ）	114	16	98	77	29	9	39	37	13	12	12
平. 5（ 9 ）	86	17	96	56	21	11	24	30	15	7	8
10（ 10 ）	54	11	43	32	9	10	13	22	7	11	4
2003年（ 11 ）	**44**	**8**	**36**	**29**	**8**	**9**	**12**	**15**	**4**	**9**	**2**
（構成比）	（100.0）	（18.2）	（81.8）	（65.9）	（18.2）	（20.5）	（27.2）	（34.1）	（9.1）	（20.5）	（4.5）
11次－10次 増減数	△ 10	△ 3	△ 7	△ 3	△ 1	△ 1	△ 1	△ 7	△ 3	△ 2	△ 2
11次／10次 増減率	△ 18.5	△ 27.3	△ 16.3	△ 9.4	△ 11.1	△ 10.0	△ 7.7	△ 31.8	△ 42.9	△ 18.2	△ 50.0

イ 性別・年齢別養殖業就業者数

図73 性別・男子年齢別養殖業就業者数の推移

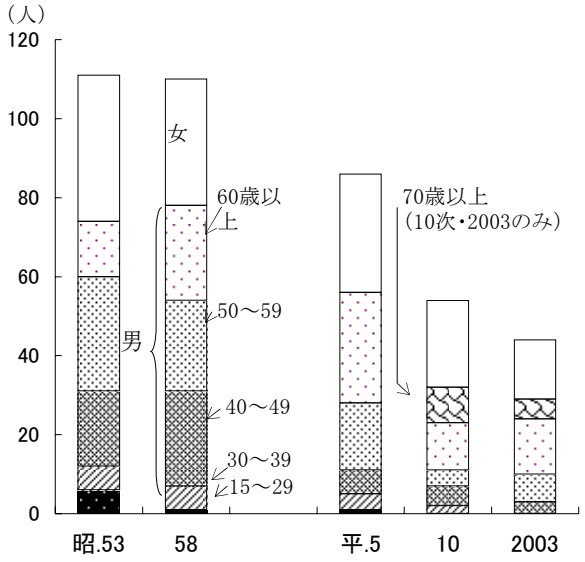
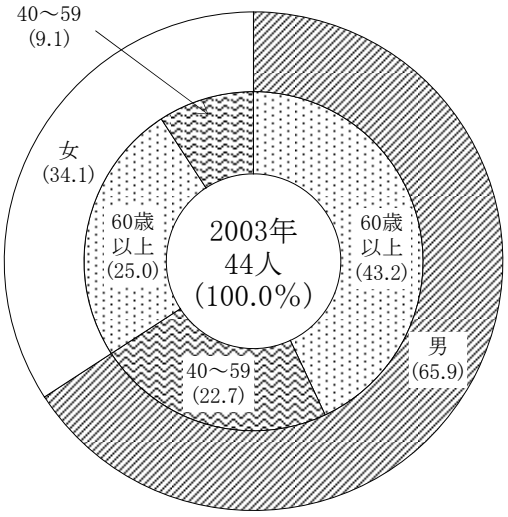


図74 性別・年齢別養殖業就業者数の割合



【39歳以下の養殖就業者は無し】

内水面養殖業における性別・年齢別就業者数は、男性60歳以上の就業者は19人で43%を占め、うち70歳以上が5人（11%）、次いで50代が7人（16%）、40代が3人（7%）となっており、男性女性ともに39歳以下の就業者は皆無となった。

また、過去1年間に内水面養殖業を営んだ就業者のうち、個人経営体の後継者と回答した就業者は、2人で全体の5%と僅かで、高齢化と後継者不足が顕著である。

表43 性別・年齢別養殖業就業者数

単位：人・%

区　　分	総　数	男　子						女　子			
		15～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70歳以上	40歳未満	40～59	60～69	70歳以上
昭.53（第　6次）	111	6	6	19	29	14		8	24	5	
58（　7　）	110	1	6	24	23	24		7	21	4	
63（　8　）	114	…	…	…	…	…		…	…	…	
平. 5（　9　）	86	1	4	6	17	28		3	12	15	
10（　10　）	54	－	2	5	4	12	9	2	7	8	5
2003年（　11　）	**44**	**－**	**－**	**3**	**7**	**14**	**5**	**－**	**4**	**8**	**3**
（構成比）	（100.0）	－	－	（6.8）	（15.9）	（31.8）	（11.4）	－	（9.1）	（18.2）	（6.8）
11次－10次　増減数	△ 10	－	△ 2	△ 2	3	2	△ 4	△ 2	△ 3	0	△ 2
11次／10次　増減率	△ 18.5	－	－	△ 40.0	75.0	16.7	△ 44.4	－	△ 42.9	0．0	△ 40.0

（注：63年は、都道府県別当該結果表未作成。）

（4） 養殖施設
ア 養殖施設の概況

図75 養殖池総数と1経営体平均池数の推移

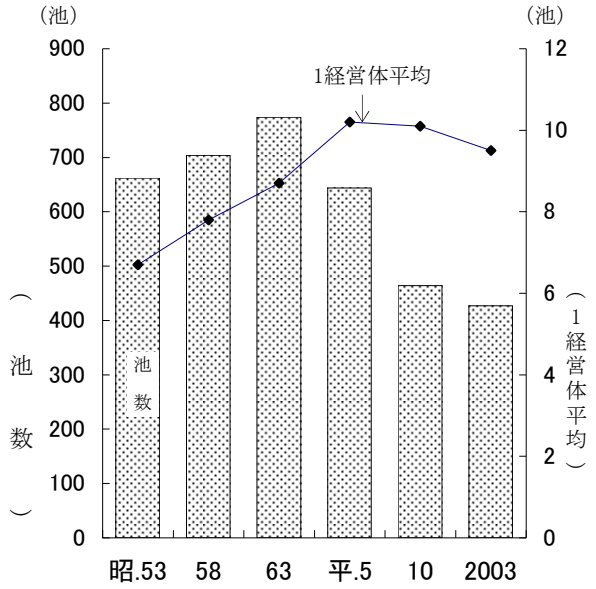
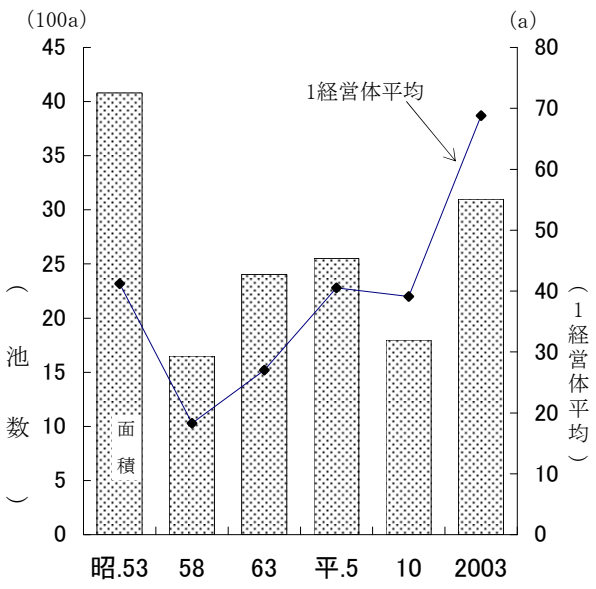


図76 養殖総面積と1経営体平均面積の推移



【1経営体平均施設面積大幅増加】

内水面養殖業における施設の状況は、総池数が前回に比べ37面減少し427面となり、1経営体平均池数も1面（6%）減少した。

また、養殖面積は前回に比べ1,299アール（72%）増加し3,098アールとなり、1経営体平均面積も76%増加し69アールとなった。これは、ため池の使用増加によるものである。。

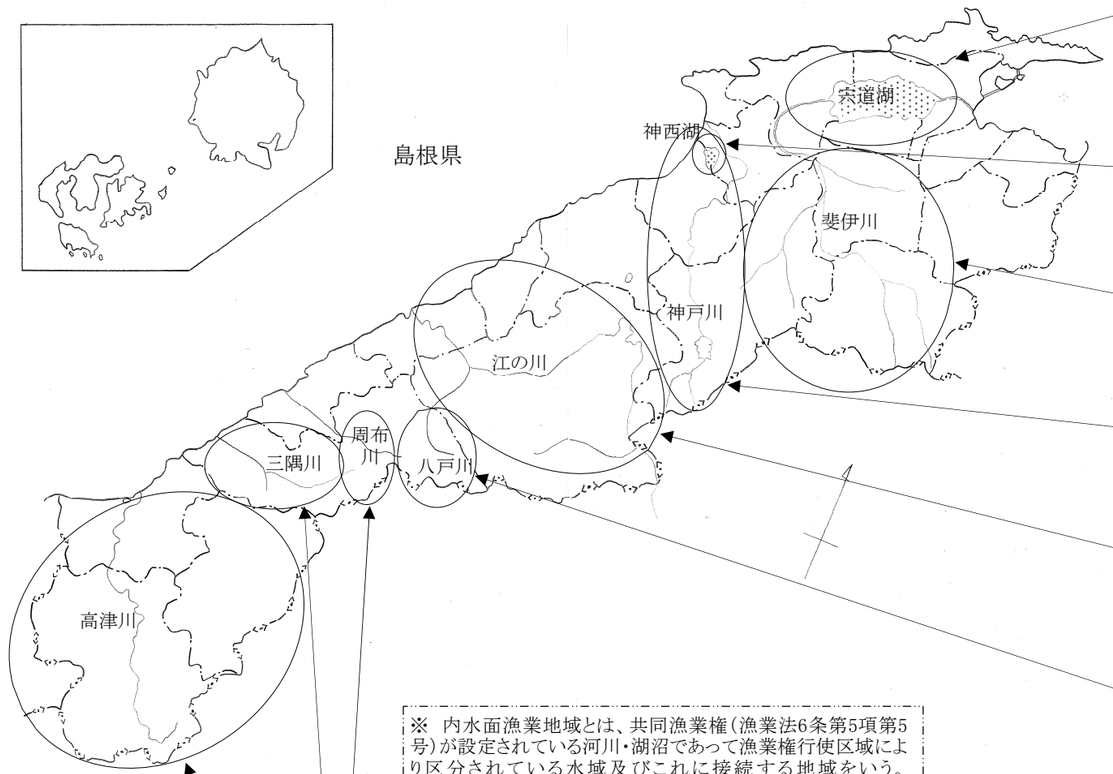
表44 養殖施設の概況

単位:経営体・a・%

区　　分	経営体数	養殖池数		養殖面積	
		総数	1経営体平均	総数	1経営体平均
昭.53（第 6次）	99	662	6.7	4 080	41.2
58（ 7 ）	90	704	7.8	1 649	18.3
63（ 8 ）	89	774	8.7	2 403	27.0
平. 5（ 9 ）	63	644	10.2	2 551	40.5
10（ 10 ）	46	464	10.1	1 799	39.1
2003年（ 11 ）	**45**	**427**	**9.5**	**3 098**	**68.8**
11次－10次 増減数	△ 1	△ 37	△0.6	1 299	29.7
11次／10次 増減率	△ 2.2	△ 8.0	△ 5.9	72.2	76.0

3 内水面の漁業地域に関する統計
（1） 漁業地域の多面的機能と生活環境

図77 内水面漁業地域概略図と概要



※ 内水面漁業地域とは、共同漁業権（漁業法6条第5項第5号）が設定されている河川・湖沼であって漁業権行使区域により区分されている水域及びこれに接続する地域をいう。

◎漁業地域	**周布川**
漁場環境	放流事業、清掃活動等が実施されている。
遊漁の状況	河川において年間延べ約1,300人が遊漁を行っている。 ポスター・パンフレットを作成し、啓発・普及活動を行っている。
地域活性化の取組み	祭り・イベントは年1回開催されている。

◎漁業地域	**三隅川**
漁場環境	放流事業、産卵場の造成管理、外来魚の駆除・清掃活動等が実施されている。
遊漁の状況	河川、釣堀において年間延べ約1,500人が遊漁を行っている。 ポスター・パンフレットを作成し、啓発・普及活動を行っている。
地域活性化の取組み	祭り・イベントは年4回開催されている。

◎漁業地域	**高津川**
漁場環境	放流事業、保護水面管理、産卵場の造成管理、外来魚の駆除、清掃活動等が実施されている。
遊漁の状況	河川、友釣り専用区域、ﾌﾗｲﾌｨｯｼﾝｸﾞ専用区域、釣堀等で年間延べ約4,100人が遊漁を行っている。 ポスター・パンフレットの作成やその他の啓発・普及活動を行っている。
地域活性化の取組み	ｷｬﾝﾌﾟ場（5ヶ所）を延べ約11,500人が利用、水産物直売店（8ヶ所）を道の駅等へ併設し多くの人に利用されている。祭り・イベントは年12回開催されている。

◎漁業地域	**宍道湖**
漁場環境	放流事業、保護水面管理、産卵場の造成管理、外来魚の駆除、清掃活動等が実施されている。
遊漁の状況	湖面において年間延約2,000人が遊漁を行っている。
地域活性化の取組み	水上スポーツ場（1ヶ所）を年間延べ約4,000人が利用、水産物直売店（1ヶ所）を年間延べ約2,000人が利用、祭り・イベントは年間20回開催され、うち漁業体験を行うイベントも10回開催されている。

◎漁業地域	**神西湖**
漁場環境	放流事業、保護水面の管理、産卵場の造成管理、清掃活動等が実施されている。
遊漁の状況	湖面等で年間延べ約3,000人が遊漁を行っている。
地域活性化の取組み	祭り・イベントが年間7回開催され、うち漁業体験のイベントが5回開催されている。

◎漁業地域	**斐伊川**
漁場環境	放流事業、保護水面管理、産卵場の造成管理、外来魚の駆除、清掃活動等が実施されている。
遊漁の状況	河川及び友釣り専用区域、渓流釣場、釣堀等で年間延べ約1万人が遊漁を行っている。 その他の啓発・普及活動を行っている。
地域活性化の取組み	水上スポーツ場（1ヶ所）を年間延べ約1,000人が利用し、漁業体験を行うイベントが年11回開催されている。

◎漁業地域	**神戸川**
漁場環境	放流事業、外来魚の駆除、清掃活動等が実施されている。
遊漁の状況	河川及び友釣り専用区域、渓流釣場、釣堀等で年間延べ約700人が遊漁を行っている。
地域活性化の取組み	ｷｬﾝﾌﾟ場（1ヶ所）を年間延べ約2,000人が利用し、祭り・イベントが年1回開催されている。

◎漁業地域	**江の川**
漁場環境	放流事業、保護水面管理、産卵場の造成管理、外来魚の駆除、清掃活動等が実施されている。
遊漁の状況	河川で年間延べ約2,600人が遊漁を行っている。ポスター・パンフレットを作成し、啓発・普及活動を行っている。
地域活性化の取組み	ｷｬﾝﾌﾟ場（3ヶ所）、水上スポーツ場（1ヶ所）を延べ約6,500人が利用し、年1回漁業体験を行うイベントが開催されている。

◎漁業地域	**八戸川**
漁場環境	放流事業・産卵場の造成管理・清掃活動等が実施されている。
遊漁の状況	河川において年間延べ約2,000人が遊漁を行っている。 ポスター・パンフレットの作成やその他の啓発・普及活動を行っている。
地域活性化の取組み	ｷｬﾝﾌﾟ場（1ヶ所）を年間延べ約2,000人が利用し、祭り・イベントは年2回開催されている。

（2） 漁場環境（魚種別放流数量）

図78 さけ・ます類、こい、ふな、うなぎ（平．15年）

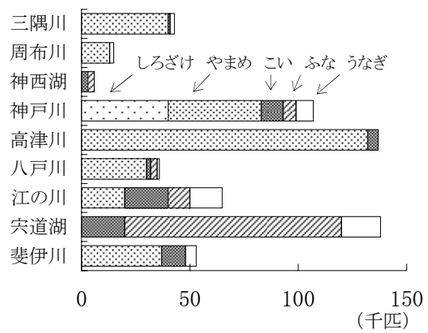
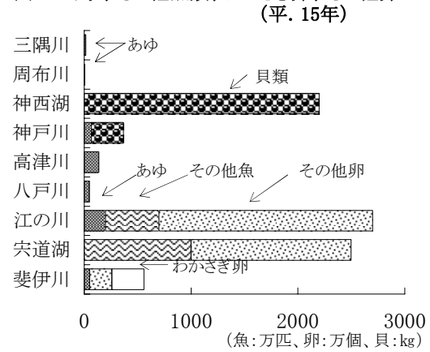


図79 あゆ、その他魚類、わかさぎ卵、その他卵（平．15年）



参　考

内水面漁業漁獲量・内水面養殖業収獲量（農林水産統計年報：センサス調査年次抜粋）

図80　主な魚種別漁獲量の推移（宍道湖）

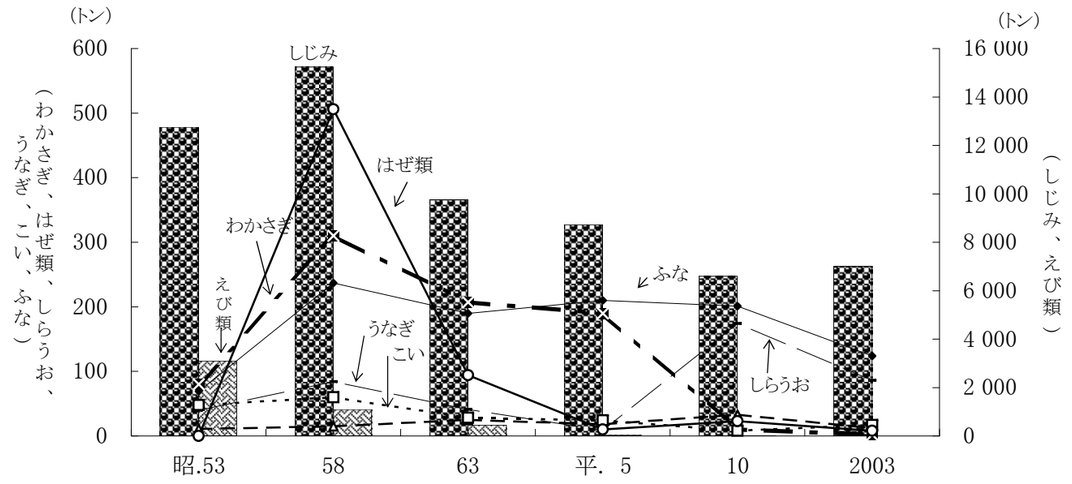


図81　主な魚種別漁獲量の推移（神西湖）

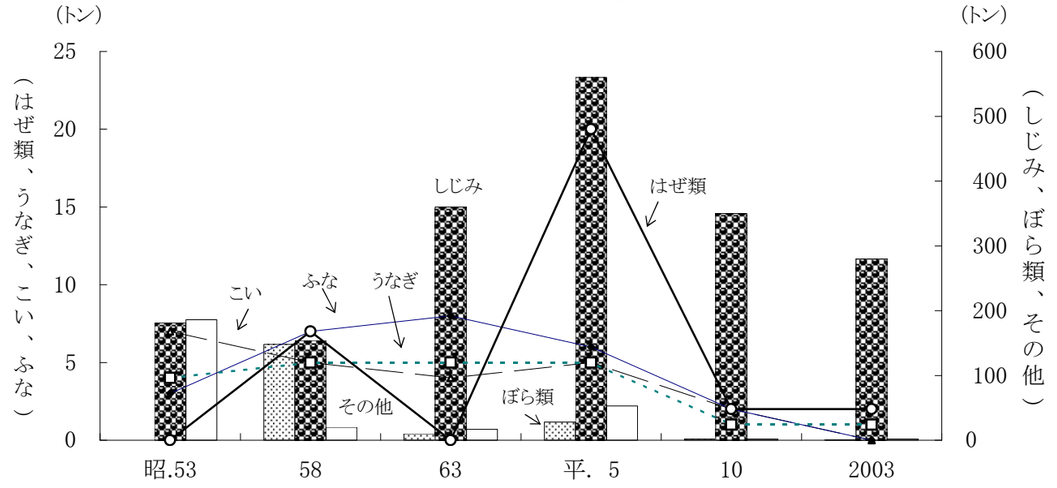


表45　内水面漁業漁獲量（うち湖沼）　「内水面漁業漁獲統計調査」の結果による。　単位：トン

区分		計	わかさぎ	あゆ	しらうお	こい	ふな	うなぎ	ぼら類	はぜ類	しじみ	えび類	その他
宍道湖	昭.53	18 768	80	－	40	11	69	48	…	…	12 748	3 096	2 676
	58	17 709	310	0	84	15	237	60	9	506	15 237	1 095	156
	63	10 837	207	－	41	25	190	28	3	94	9 760	450	39
	平．5	9 368	190	－	9	18	210	24	1	10	8 730	51	125
	10	7 270	10	－	174	33	201	8	8	23	6 600	23	190
	2003	7 443	2	－	86	12	124	17	6	8	7 000	5	183
神西湖	昭.53	382	－	－	0	7	3	4	…	…	181	1	186
	58	347	－	－	0	5	7	5	148	7	154	1	20
	63	408	－	－	1	4	8	5	10	－	360	3	17
	平．5	681	－	－	0	5	6	5	28	20	560	3	53
	10	362	－	－	0	2	2	1	2	2	350	1	2
	2003	286	－	－	－	0	0	1	1	2	280	0	2

表46　内水面養殖業収獲量　「内水面養殖業収獲調査」の結果による。　単位：トン

区分		計	にじます	その他のます類	あゆ	こい	ふな	うなぎ	その他の魚類	すっぽん
内水面養殖	昭.53	131	18		4	74	0	30	3	2
	58	115	4	19	3	64	－	15	7	3
	63	97	5	36	2	38	1	6	3	6
	平．5	72	5	20	5	37	－	0	1	4
	10	59	6	22	4	25	－	－	0	2
	2003	33	3	10	x	x	…	－	…	…

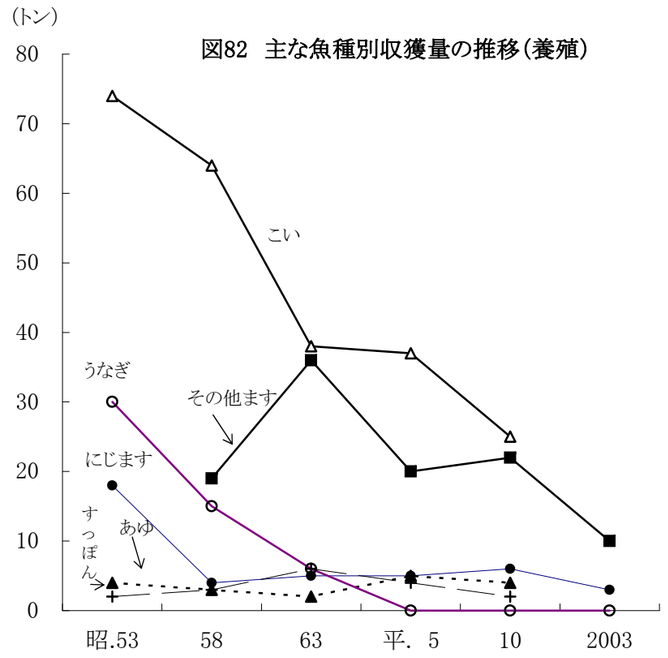



図82　主な魚種別収獲量の推移（養殖）